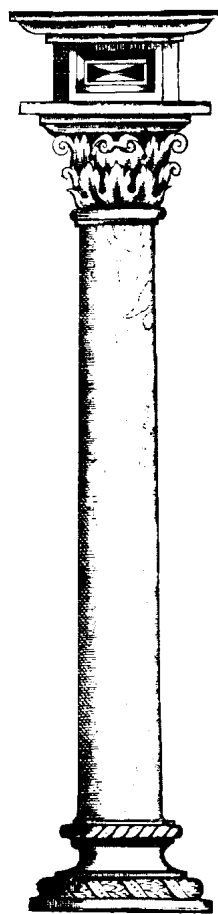
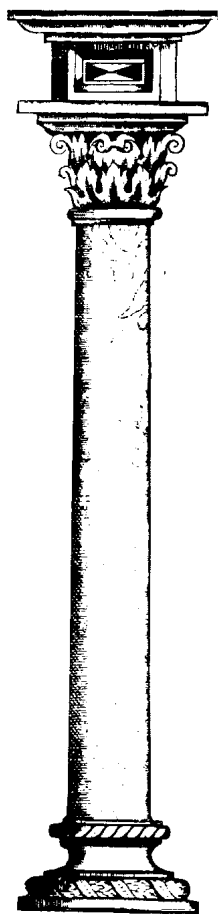


小松左京

歴史と文明の旅

小松左京 歴史と文明の旅上



歴史と文明の旅 上

定 価 680円

発 行 昭和48年12月10日 第1刷

著 者 小松左京

発行者 榎原雅春

発行所 株式会社文藝春秋

東京都千代田区紀尾井町3
電話 265-1211

印 刷 凸版印刷

製 本 和田製本

© Sakyo Komatsu 1973 Printed in Japan

0026-361190-7384

万一乱丁落丁がありましたらお取りかえ致します

歴史と文明の旅 上／目次

巨大な草食獣・ロシア	5
スマイルと外交の国・タイ	39
理想国家・スイスの現実	79
最大の情報国家・ヴァチカン	125
オーストリアの光と影	165
トルコ・東洋と西洋のあいだ	207
あとがき	240

装帧 栗屋 充
カバール大英博物館「ロ
ゼッタ・ストーン」より

歴史と文明の旅
上

故 S・I 氏に感謝をこめて

巨大な草食獣・ロシア

東京をたつて約二時間、日本航空のボーイング727が、ハバロフスク空港にむかつて高度をさげはじめると、私は窓に額をおしつけたまま、とうとう着陸まで、眼下の光景から眼をはなすことができなかった。

それは息をのむような、異様な光景だった。高度約千メートルから見おろす視界いっぱい、直下から地平線のはてまで、まるで巨大なみみずが、泥濘の大平原に何万匹もでたらめにのたくっているような紋様にべったりおおわれている。機が旋回するにつれて、その紋様の表面がにぶく光る。――地上いっばいにぶちまけられたその何万匹もの巨大なみみずは、アムール氾濫原上に描かれた水の紋様だった。どれとどれがつながっているのかまったくわからない。切れているかと思えばつながり、延々とうねりくねっているかと思えば、その端がふさがっている。どの水路も、蛇行などというなまやさしいものではない。まるで腸^{はらわた}をおりたたんだようにおれまがつているかと思うと、そのまがつた間にまた別の水路がはいりこんでいる。しかも、よく見ると、そ



- ⑬マリ自治共和国 ⑭タタール自治共和国 ⑮バシキール自治共和国 ⑯タージック共和国
 ⑰ゴルノアルタイスク自治州 ⑱ハカス自治州 ⑲ツブンスカヤ自治共和国 ⑳ユダヤ人自治州

った。

「気持ちいいね」と同じ便にのった日本文芸家協会の巖谷大四さんは、おりたった空港で空をああおいでいった。「初秋って感じだね」

「そりゃそうですよ。なにしろ『日本の秋』——大陸高気圧というのは、こゝでこさえられて、日本へおくられてくるんですからね」と、私もうきうきした声でいった。「われわれは今『秋』の製造もと——つまり本場で、できたての秋を味わっているわけですよ」

ハバロフスク空港には、アエロフロートおなじみのアントノフ10、イリューシン18、ツポレフ104といった旅客機がたくさんとまっていた。以前、東京—モスクワ間をとんでいた世界最大のターボプロップ、ツポレフ114の、おそろしく背の高い姿も見えた。——着陸前には、軍用

飛行場に、ミグ21型らしい戦闘機や、ツポレフ16の偵察型らしい機体も見えたし、煙をはく巨大な工場群、発電所、それにゆったりとまわりにスペースをとった、無数の労働者住宅群も見えた。

十七世紀の毛皮商人兼探検家のエロフェイ・バヴロウィッチ・ハバロフが、ロシア人としてはじめてこのアムール流域を探検し、堡壘^{ほろうい}アチャンスクを設置してから三百年、それから二百年後の一八六八年においてさえ人口千人にすぎなかったハバロフスクは、現在人口四十五万人、ソ連邦極東地区最大の行政・産業・経済・軍事拠点となった。第二次大戦では、日本軍の捕虜もたくさんここに収容された。

だが、いかに人口が爆発的にふえ、大工場ができればと、この街をとりまく巨大なシベリアの自然は、三百年前の、森林と獣と大河と、それにまばらな狩猟・漁撈民の時代とかわるまい。



①マリ自治共和国 ②タタール自治共和国 ③バシキール自治共和国 ④タージック共和国
 ⑤ゴルノアルタイスク自治州 ⑥ハカス自治州 ⑦ツブンスカヤ自治共和国 ⑧ユダヤ人自治州

巨大な草食獣・ロシア



- ①エストニア共和国 ②ラトビア共和国 ③リトアニア共和国 ④白ロシア共和国 ⑤モルダヴィア共和国
 ⑥ウクライナ共和国 ⑦グルジア共和国 ⑧アルメニア共和国 ⑨アゼルバイジャン共和国
 ⑩テチェノ・イングール自治共和国 ⑪カルムイク自治共和国 ⑫チュヴァシュ自治共和国

——そのころから、いや、それよりはるか昔から、雄大なアムールは、ウスリーや、スنگガリーの合流点一帯にかけて、雪どけ水をぶちまけ、日本の秋は、やはりこの広大な土地の上空につくられて、海をこえて秋津洲^{あきつしま}におくられてきただろう。

ここから経度にして一四〇度彼方のヨーロッパまで、一つづきの平らかな土地がつづいている。東北方のチュコト地区からなら経度一七〇度、北半球を完全に半周する巨大な土地だ。チュコト半島デジネフ岬から東ヨーロッパのカリーニングラードまで、北極海上のゼムリア・フランチア・ヨシファ諸島からアフガニスタン国境のクーシカまで、東西一万一千キロメートル、南北四千五百キロメートル、面積二千二百四十万平方キロ——全世界の陸地総面積の六分の一、ユーラシア大陸の七〇%をしめ、アメリカ合衆国の二倍以上、カナダ・中米をふくめた北米大陸全土にほぼ匹敵し、日本の国土面積の実に七十三倍である——その中には、日本の面積よりも二割もひろい、世界最大の湖カスピ海や、水深一七四二メートルという世界最深のバイカル湖、世界の四番目と五番目の長さをもつ大河、マイナス七一度という世界最低気温を記録したベルホヤンスクをふくみ、二億四千万人の人々の住む、世界最大の国土が、ここから北へ、西へ、東へと、はてしなくひろがっているのだ。

空港には、ソ連作家同盟から招待された日本文芸家協会の三人のメンバーと、その方たちとは別口の招待ながら先方の要求によって協会の方たちと同行した私を、むかえてくれるはずの通訳

は来ていなかった。東京との間の国際線が開設されたばかりの空港で、税関検査はきびしく、その上モスクワ行きは、最初四時間おくれ、つづいてさらに八時間おけると宣告された。

だが、私はそんな事は一向平気だった。——バラ色の頬の子供たちが建物のをぞぎ、イルクルックまで行って来たという女性の多い日本人観光団が、そろそろ東京行きへのりこんでいた。空港のカフェには、カピアやサラミをのせたロシア式オープンサンドとよく冷えた白葡萄酒の壺がずらりとならんでいた。時間待ちにはいった空港前の、ガラスをいっぱいにつかったモダンなデザインのレストランは、夕食にやってきた背広姿の労働者やミスカーットの女性にあふれ、がちりしたウエイトレスは言葉が全然通じないのに親切であり、食事は量がたっぷりあり、やがて陽気なバンドがアメリカン・ジャズやロシア民謡を演奏しはじめた。

泥柳トナリのシルエットが、茜色と群青に巻雲を刷いた空にうかび上る公園の、ひんやりする清澄な空気を胸いっぱい吸いながら、私の心に突然うかんできたのは、「ニーチュエヴォ」という言葉と「平和」という言葉だった。——数すくないロシア語の知識の中で、この「ニーチュエヴォ」という言葉は、「しかたがない」というロシア農民のあきらめの言葉として、たしか中国語の「没法子」という言葉と一緒に教えられたのである。だが、アムール氾濫原の雄大にして異様な紋様に圧倒され、ハバロフスク周辺の、はてしない深さとひろがりを感じる自然の気配を胸一ぱいに吸いこんだあと、おのずとかんできたこの言葉は、日本で教わった時と、まったくことなったニエアンスを持ってひびくのにびっくりした。——通訳が来ていない？ モスクワと連絡がとれない？ 飛行機が十二時間もおくれる？ ソ連はこんなに大きい。ロシアの自然はこんなに広大な

んだ。多少の手ちがいがあったって当然じゃないか。——ニーチェヴォ……氣にしない。(モスクワについてから、私の通訳をやってくれたタニヤさんに、私はたしかめてみた。——ニーチェヴォは「しかたがない」じゃなくて、*I don't mind* のニュアンスじゃありませんか?——おお、はい、そうです、とタニヤさんはいった。——しかたがない、は別のいい方があります)

たそがれの空にむかつて、ニーチェヴォ、ととなえると、あのせせこましい、ごちゃごちゃした、分ぎざみの、きちがいじみた日本の生活の、ちょっとした齟齬でいららするニューロティックな神経がごっそりぬけおちて行くようでせいせいた。かわってシベリアの広大な自然にふさわしい、ゆったりとしたテンポが胸をみたし、私はすっかり幸福な気分になった。——同時に *Мир* という言葉がうかんできた。バラ色の頬の子供たち、見ばはよくないがたっぷりある食物、明るい螢光灯の光にあふれた満員のレストランで手をたたいておどる労働者、農民……そしてひっきりなしにぶんぶん発着するアエロフロートにつめこまれ、この広大な国土のあちこちから来て、またあちこちへはこばれて行くロシアの、シベリアの、外国の旅行者たち……。

今、この極東シベリアは、かつての帝制時代にくらべて、おどろくほどひらけ、そこに住む人たちのくらしはおどろくほどゆたかになった。その背景に、この広大な国土の上に、四分の一世紀つづいた「平和」がある。——たしかに、雪どけごとにでかい島の三つ、四つは消してしまい、同じくらしい数の新しい中洲をつくるアムールをはさんで、中国との間に小ぜりあいをはてしなくつづいている。だが、いまこの世界最大の国土の上には、基本的、平和がつづいているのだ。